

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
2024年 5月 7日	
岐阜県知事殿	
提出者 住 所 加茂郡川辺町石神681-1 氏 名 ライン生コン株式会社 代表取締役 横関 宏也 電話番号 0574-53-2565	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	ライン生コン株式会社 関工場
事業場の所在地	関市肥田瀬207
計画期間	2024年4月1日～2025年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	E: 製造業 21 窯業、土石製品製造業
② 事業の規模	資本金: 2075万円 生コンクリート製造出荷額: 198百万円
③ 従業員数	13名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	全産業廃棄物発生量に対して、全量を産業廃棄物処分業者に依頼する。



(日本工業規格 A列4番)

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

工 場

↓

産業廃棄物処理運搬業

↓ (株) 大 輝 (許可番号 02101190034)

(株) 小西開発 (許可番号 02101125128)

産業廃棄物処分業

(株) リサイクル大輝 (許可番号 02121000325)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（ 2023年度 ）実績】		
	産業廃棄物の種類	コンクリート破片	
	排 出 量	3229.320 t	t
	(これまでに実施した取組)		
	・ 廃棄物置場の管理 ・ 電子マニフェストの導入による管理 ・ 産業廃棄物の排出抑制及び適正処置について当工場従業員に周知徹底 ・ 産業廃棄物中間処理施設技術管理者の増員 ・ 戻りコンクリート及び圧送ポンプ車の洗車を有料化		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	コンクリート破片	
	排 出 量	3000 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・ 前年度に実施した取組みを継続し、処理量の減量に努める。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 戻りコンクリート コンクリート破砕
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 該当なし。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（ 2023年度 ）実績】		
	産業廃棄物の種類	コンクリート破片	
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) ・該当なし。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	コンクリート破片	
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・該当なし。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（ 2023年度 ）実績】		
	産業廃棄物の種類	コンクリート破片	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) ・該当なし。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	コンクリート破片	
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・該当なし。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（ 2023年度 ）実績】		
	産業廃棄物の種類	コンクリート破片	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) ・該当なし。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	コンクリート破片	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・該当なし。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（ 2023年度 ）実績】		
	産業廃棄物の種類	コンクリート破片	
	全 処 理 委 託 量	3 2 2 9 . 3 2 0 t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	3 2 2 9 . 3 2 0 t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組) 産業廃棄物処理委託契約、産業廃棄物収集運搬車許可業者並びに 産業廃棄物処理業許可業者と締結。電子マニフェストを導入した 管理を徹底し、維持する。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	コンクリート破片	
	全処理委託量	3000 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	3000 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・前年度と同様に産業廃棄物の増減は、納入先からの戻りコンクリート（多量発注）による。各生コン納入現場の担当者の方に、必要数量を正確に発注して頂けるようにその都度依頼し、減量化に努める。また産廃処理料を徴収することで継続して減量化に努める。		
	※事務処理欄		

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。